

自己評価・園の自己評価について

- ①年度末に各自の 1 年間を項目別に振り返り、自己評価を付ける（指定の書式配布）
- ②全員の自己評価をまとめ、園の弱い部分や認識の薄い部分をどのように周知・強化をするか役職会議にかける。
- ③周知・強化内容が決定したら、園内掲示にて保護者への公表と共に、職員周知を始め、次年度の取り組みとする。

令和3年度 園の自己評価結果

保育の理念・保育観

保育所保育指針の理解について、「努力が必要」が多い。

保育の内容

(1) 保育計画・指導計画

「よく出来ている」「ほぼ出来ている」がほとんどだが、どの内容にも、「努力が必要」と感じている職員がいる。

(2) 乳児保育

こどもの発達・発育・生育歴・保護者の状況などの理解に関して「よく出来ている」「ほぼ出来ている」が半数を超しているが、

(3) 3歳児未満児保育

「良く出来ている」と感じている職員が多い。

(4) 「よく出来ている」「ほぼ出来ている」と感じている職員が多い。

(5) 特別な配慮や支援を必要とする子ども（障害児）の保育

「よく出来ている」「ほぼ出来ている」が殆んどだが、「努力が必要」の割合が高い項目もある。

(6) 行事 (7) 延長保育・一時保育 では「よく出来ている」「ほぼ出来ている」の回答が多い。

質の向上

他クラスの保育について、疑問や感想・意見をお互いの向上のために伝えられるかの項目では「ほぼできている」が多いが、「努力が必要」と考えている職員もいる

研修

研修については今年度ほとんど受講できなかった。理由として

- ・研修自体が中止
- ・電車に乗って会場まで行くのが怖い（コロナ）
- ・リモートで受けにくい。（不安）

などが挙げられている。

園内研修についても計画はしていたが、1週間前に中止など、職員が集まった時に万が一コロナが出たら、クラスターになるので、中止の判断をした。

以上が自己評価の集計から見えてきた内容です。

令和3年度自己評価による改善方法

平松（長）・須崎（主任）・椎葉（副主任）・田中（副主任）による4名での検討結果です。

項目①

少人数でも指針の読みあわせをしていく。

項目②

- (1) 全職員が保育課程を含め、必要な年案・月案に目を通すよう伝える。
- (2) 年度初めのミーティングで情報共有しているが、年度途中でも一度情報共有の時間をとるようにする。
- (5) 障害児・配慮児についての関わり方や園の方針・保護者対応について園内研修を行う。

項目⑦

ミーティングもしくはホワイトボード園内研修で改善。研修発表の仕方を工夫する。

*集まれる状況になったら全体ミーティングや研修を増やしていきたい。
今後の社会情勢をみて、その都度検討して行く。

*コロナ対策に力をいれる。

人事考課について

平成30年度の人事考課の作成にあたり、年度末に1年間の様子を観察し、各クラスの状態をクラスごとの評価とし、各クラス・調理リーダーが一次評価をする。その後、主任・副園長及び園長が二次評価点数を付け、評価することとする。

平成30年3月30日

園長 平松 珠子